

# 女子部が行く!

学会探訪記

第3回 定時総会 —会員なら誰でも参加できる会だった!—



レポーター 土井千章 ((株) NTT ドコモ)

## 2015年度定時総会に潜入!

このコーナーは女子部のメンバが実際に学会を探訪し、そこで繰り広げられている出来事を赤裸々にお伝えするコーナーである。第3回は、2015年6月3日に東京都千代田区にある学士会館で開催された2015年度定時総会の様子をレポートする(図-1, 図-2)。

2015年度定時総会 15:00～
次第
1. 2014年度に係る報告
2. 新名誉会員の推薦
3. 定款の変更および一般規則の改訂
4. 新役員の選任
5. 2015年度に係る計画(報告)
6. 会費滞納会員の取り扱い(報告)
7. 表彰(功績賞ほか)

講演会 17:30～
「情報処理学会は変わります」 第27代会長 喜連川優
「マイナンバーは安全か？」 榎並利博 ((株) 富士通総研 経済研究所主席研究員)

交流会 18:30～
------------

定時総会では昨年度(2014年度)の事業や収支の報告が行われ、新役員の選任や表彰式が行われる。第1回目の定時総会は1960年に行われており、長い歴史があることを知って驚いた。私が初めて本会の会員になった

のは2006年であったが、会員なら誰でも参加できる定時総会に恥ずかしながらこの10年間1度も参加しようと思ったことはなかった。しかし、そんな私がたった1度の参加で来年も参加したいと思うようになった。今回は、意外と知られていないのではないかとと思われる定時総会の魅力をいくつか紹介したい。

## NEMA型エニグマ暗号機

定時総会では、参加者がより楽しめるようにイベントが企画されるようだ。今回のイベントでは、アンティークなタイプライタのようなNEMA型エニグマ暗号機が展示されていた(図-3)。エニグマ暗号機とは、第一次世界大戦中にドイツで開発された平文を別の文字や記号等に変換することで暗号文を作成する換字式と呼ばれる暗号方式を使用した暗号機である。NEMA型エニグマ暗号機は、このエニグマ暗号機をスイスが自国の暗号通信用に独自改良した暗号機であると紹介されていた。日本に2台しかないといわれているエニグマ暗号機で実際に平文を入力して暗号文の作成を行うデモが行われており(図-4)、会場を賑わせていた。



図-1 総会の様子1



図-2 総会の様子2

★本稿に出てくる役員は取材当時の役職名となります

## 1 時間におよぶ表彰式

1 時間ほど行われた昨年度の事業や収支報告、新役員の選任の後に、表彰式が行われた（図-5）。表彰式は、新名誉会員の方への名誉会員記から始まり、功績賞、論文賞、優秀教材賞、感謝状等、9 種類の賞に対して 51 件の表彰があった。

「生命情報処理と ICT を橋渡しする教材：バイオインフォマティクス in silico」で 2014 年度優秀教材賞を受賞された早稲田大学の松山泰男氏にお話を伺うことができた（図-6）。

「大学の教員として教育の賞をいただけることはとても嬉しい。ヒトゲノムの解読が完了した 2003 年のスタンフォードでの会議当時、コンピュータサイエンス系でバイオロジーについて書かれている書籍がなく、これは自分が書くしかないと思った。洋書を 100 冊以上、購入価格にして 200 万円以上の書籍を読みながら 8 年かけて「バイオインフォマティクス in silico」の執筆を行った。著書が表彰されるこ

とは一生に 1 度あるかないかという点でもとても嬉しい」と話してくださった。

どのような功績に対しての表彰であるかを知ることができるのも面白かったが、その後の休憩時間や懇親会で受賞された方に受賞に関するエピソードなどをお伺いできるのは定時総会ならではのと思う。

## 定時総会の舞台裏や理事の思い

紙面の都合上、ご紹介できないのが残念だが、そのほかにも本会第 27 代会長の喜連川優氏による 2 年間の振り返りや富士通総研の榎並利博氏の「マイナンバーは安全か」という講演が行われた。定時総会に参加してみて、参加者を楽ませる工夫や今年度（2015 年度）からの賛助会員の定時総会参加など、参加者同士の交流を促進する工夫が凝らされていると感じた。そこで、理事の日本電気の妹尾義樹氏と富士通の松尾昭彦氏に定時総会の舞台裏や今後の展望について伺ってみた（図-7、図-8）。



図-3 NEMA 型エニグマ暗号機



図-4 NEMA 型エニグマ暗号機 デモの様子



図-5 表彰式の様子



図-6 優秀教材賞を受賞された 松山氏



図-7 (左) 妹尾氏, (右) 松尾氏



図-8 インタビューの様子



図-9 喜連川氏



図-10 富田氏



図-11 塚本氏

**妹尾氏**「本会は、時代の流れに合わせて適応的に発展していくことが必要であると考えている。変える必要があるところは、とことんチャレンジして変えていきたい。定時総会では、たくさんの方にご参加いただき、楽しんでいただけるような内容を検討した。また、賛助会員数の増加に向けて学会と産学連携を深める機会を増やしていきたいと考えている」

**松尾氏**「定時総会は、人脈を形成する良い機会だと思う。そのためには、会員の方に参加していただくことはとても重要である。定時総会にご参加いただくため、会員の方がどのようなことに興味があるかを考えて本で行われた講演内容を検討した。今後は、社会に出てからも役に立つような学生の会員向けのイベントも検討していきたい」

## 番外編

普段は雲の上にいるような方々と、美味しい食事を楽しみながら歓談できるのも、学会や定時総会ならではのと思う。私も喜連川優氏から今後の本会への期待(図-9)、第28代会長の富田達夫氏から今まで携わられてきたお仕事や今後の本会への思いについて直接伺うことができた(図-10)。

我ら編集委員会編集長塚本昌彦氏は、スマートフォンで自由自在にウェアラブルグラスの光色を調節されながら、誰よりも会場で光を放っておられた(図-11)。写真をカラーでお見せできないのが残念だ(笑)。

以上を定時総会のレポートとさせていただく。読んでくださった皆様の定時総会に対する理解が少しでも深まることになれば嬉しい限りである。

(2015年6月9日受付)

